

アラハン センパイ 先輩

Vol. 9

アラハンとは…100歳前後の人のこと
「アラウンド・ハンドレッド」の略

人生のアラハン先輩に
長生きのヒント
生活の知恵など様々な
お教えを頂きます！



第一交通産業株式会社 相談役 黒土 始さん (100歳)

今号の
アラハン
先輩



始龍 (しりゅう)

日本を代表する気鋭の墨絵・陶墨画アーティストである西元祐貴氏の作品。黒土さんのまさに「龍」の如き比類なき孤高の姿を描いた。



——百歳になられたそうですね。おめでとございます。百歳というところ、黒土さん 大正11年(1922年)に大分県の中津で生まれました。誕生日は1月31日です。

——百歳を迎えられた時のお気持ちはいかがでしたか。

黒土さん 全力で走ってきましたので、あっという間に100歳になっていた、そういう感じでしたね。若い頃は、70歳代まで生きれば結構だと思っていましたかね。

——長生きの秘訣を教えてくださいませんか。

黒土さん ひと言で言いますと、規則正しい生活ですね。私が起きているのは朝の7時です。会社に出ているのは毎日9時半から10時の間で、長いときは夕方まで会社で仕事をしています。寝るのは夜の9時です。ただ、夜はよく目が覚めますが、睡眠を充分にとるのは大切なことです。この生活のリズムは、会長時代も、相談役になった今も変わりません。

——食生活では、どう気を付けているのですか。

黒土さん 野菜を多く食べるように気を付けています。口の中では35回噛むようにもしています。晩酌も適度にやっています。私の歯のほとんどは自前の歯ですよ。

——黒土さんは今年6月の第一交通産業の株主総会で相談役に就任されました。それまでは、代表取締役副社長会長だったのですよね。ということは、百歳まで現役で働いておられたことになりませんか。どのような仕事をされていたのですか。

黒土さん いろいろなことをしてきました。政界や業界への各種の注文や調整をはじめ、そうそう、名誉博士号をいただいた大分大学で講演もしましたね。積極的な社会貢献を心掛けてきました。もちろん、会社の事業のことはいつも考えています。

——会社の事業ではどんな風に。

黒土さん 例えば、タクシートの営業などがうまくいってないんじゃないかなって夢を見ます。出社してすぐにタクシートの副社長を呼ぶわけです。すると、「会長の言われる通り、ちょっとうまくいってないんです」との返事が返ってきます。そんな時は、すぐに対応を指示します。現場

や街で気付いたことなどを頭の中で考えていくと、世の中が何を求めているのか、会社の中の足りない面などが見えてきますので。

私がタクシー5台から立ち上げた第一交通産業は今や日本一のタクシー会社に育ちました。ですから、今の言葉でいうマーケットとか、市場とか、どこが衰退し、どこが繁栄しているかなどというのは大体においてわかっています。人生イコール仕事みたいなところがあって、身体に染み込んでいますね。

新型コロナウイルスが流行し始めた時、皆さんマスクがなくて困りましたよね。私はすぐに担当者呼んでマスクを寄付しなさいって指示しました。それに、テレワークへの取り組みなど、いち早くウィズコロナを想定した経営や社員の生活などへの改革・改善を進めるようになってきました。

——時代を先取りするとうか、そのような発想がどこから生まれてくるのですか。

黒土さん 実は、私が生まれてからずっと、母に「神の子」不動明王の子って言われ続けてきたのです。その言葉が私の心の支えとなり、幾

多の苦難を乗り越えてきました。今でも不動明王をずっと信仰しています。北九州市民の心の支えになればいいなというところで、北九州で一番古い広寿山福聚寺に三仏堂を寄進し、不動明王様を祀っています。ですから、皆さんから「神の子だから、天性のカンが備わっている」とよく言われるのですよ。

——これから相談役として、どんなことを手掛けていきたいのですか。

黒土さん 岸田首相も言っているように、私は人への投資が必要だといつも考えてきました。特に、会社ではタクシー乗務員の生活を向上させて一体感を築いてやってきました。だから、まず人づくりをやりたいですね。それに社会奉仕。また、困った企業、頑張っている企業を応援する基金でしょうか。

——常に人のため、社会のためですね。黒土さんの北九州市に対する思いをお聞かせください。

黒土さん 市長や副市長にお会いした時などは、「北九州をもっと発展させるー福岡に負けてるじゃないかー」と叱咤激励しています。もっと頑張りたいと思っています。

小倉北区の私の家の前に第一交通のグループの土地があるのですが、コロナで閉じこもっている市民のために貸し農園にし、「足立農園」と名付けました。大変好評で、満杯だと聞いています。

——最後に、元氣印のアクティブシニア、さくら「の読者の皆さんに一言お願いします。

黒土さん 私は『生涯実車』で生きてきましたが、皆さんには「生涯現役」を貫いて欲しいですね。そして、私の願いは、心おきなくお墓に入ることですね。

黒土 始さん

大分県中津市出身。1941年(昭和16年)、徴兵のため大分高等商業学校(現大分大学経済学部)を中退。終戦後、卸売会社などを経て、1960年にタクシー5台で今の第一交通産業の前身となる第一タクシーを創業。全国各地のタクシー会社と合併するなどして経営を拡大。全国一のタクシー保有台数を誇る企業グループに成長させた。今もほぼ毎日、会社に出勤し、オンラインで開く取締役会にもほとんど出席している。

賞罰

- 昭和56年 紺綬褒章 受章
- 昭和58年 藍綬褒章 受章
- 平成4年 勲四等瑞宝章 受章
- 平成10年 郵政大臣表彰 受賞
- 平成25年 勲三等旭日中綬章 受章
- 平成30年 紺綬褒章 受章
- 令和元年 大分大学名誉博士称号 受称